

私たちが広報とちぎに提案したい

5つのコト

令和元年度 宇都宮大学地域プロジェクト演習 12 班



私たちは宇都宮大学地域

デザイン科学部の三年生



です。「広報とちぎ」をもっと多くの方に読んでもらうため、市役所の職員さんと、「地域プロジェクト演習」という授業を通して活動してきました。今回は、広報紙への提案とともに、一年間の歩みを紹介していきます。

若者に読まれる広報紙に

A 顔合わせで職員さんから「広報とちぎ」をより読まれる広報紙にしたいと伺ったね。特に若い世代に読ま

B 栃木市の人口減少が関わっていたね。若者の人口を増やすために、「広報とちぎ」から栃木市の魅力を伝えていきたい！ということだったね。

読者の目線から考える

C 始まりは現状把握からだったね。栃木市に実際に足を運んで、職員さんと打ち合わせをして…。「広報とちぎ」の作り方や配布されている場所も一緒に見てまわったね。

D この栃木市見学で知った現状を踏まえ、2つのアンケートを行ったね。「広報とちぎ11月号」の紙面上で行

E わせてもらったアンケートでは、読者の皆さんがどう感じているかを教えてもらったね。いただいた意見のなかには、読者ならではの視点もあって「こんな改善策もあるのか!」と考えさせられたよ。

A このプロジェクトまで知らなかったけれど、広報紙にも全国コンクールがあるんだね。受賞した広報紙は、私たちも実際に読んで研究したけど、すごかったね。

E よし、調査と分析から考えた「広報とちぎ」への提案をまとめてみよう!

私たちが広報とちぎに提案したい5つのコト

SNS・インターネットの利用

市のホームページでも広報紙を公開しています。移動中などのちょっとした時間に、スマートフォンから広報とちぎを読むことができます。

紙面として配布するほかに、若者が親しみやすいインターネットから閲覧しやすい環境を整えていくと読むきっかけを増やすことができるのではないかと考えました。

具体的には以下の通りです。

① 若者の多くがツイッターやInstagramなどのSNSを利用しています。SNSからのアクセスを簡単にしよう!



② インターネットの利点を生かして、記事と関連するサイトへアクセスしやすくしよう!

ネットで見ることができる環境を活用したいと思いました。紙面から関連サイトへ飛べるリンクがあれば、もっと知りたい!と思ったとき便利です。

③ 紙面からも関連サイトへ! QRコードやARを利用してインターネットと紙面を行き来できるようにしよう!

SNSやインターネットを利用して、紙で読みたい人にも、スマートフォンなどから読みたい人にも、一步深い情報が手にとりやすい場所へ届けたいと思いました。



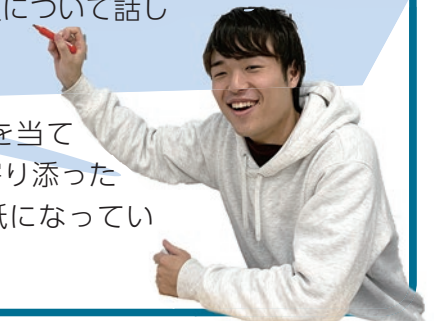
記事の内容

広報とちぎ上で行ったアンケートで、内容の記載方法についての意見が挙がりました。記事の内容は「地域の文化や歴史などの魅力をより伝えるものにしてほしい」、「自治会のリレー投稿板」や「我が家の面白かった出来事」が読みたいという意見が出ました。地域や読者同士に親しみを感じられるような紙面が求められているようです。

④ 特集の紙面で人気コーナーや地域の伝言板のようなページを用意する!

⑤ 「きらりとちぎ人」などの取材記事で地域ごとの伝統や歴史について話してもらう!

より住民に焦点を当てることで、地域に寄り添った親しみやすい広報紙になっていくかもしれません。



余白を増やして読みやすく

B この5つが私たちからの提案になります。提案の実行にまでは迫り着くことができませんでしたが、レイアウトの工夫や紙面の作り方についてはこのページでも実験してみています。

C まず、一行に対する文字の量が少なくなっています。余白を増やして読みたい情報を見つけやすくしています。

D 情報を絞る工夫は他にもあります。全体を読まずとも、真ん中の提案だけを読めば私たちの提案内容が分かるようにしました。また、

下のQRコードのリンク先では、私たちの受講している「地域プロジェクト演習」という授業の紹介をしています。私たちの活動は地域の皆様に支えられています。もし気になった方はご覧ください。



E 飽きずに楽しんで読んでいただけたでしょうか。「広報とちぎ」とともに、栃木市がより素敵な街になると私たちもうれしいです。最後まで読んでいただきありがとうございます。

A 「広報とちぎ」を誰にむけて発信し、どうしたら読みやすくなるのかを考えて一年間やってきました。今回は読みやすくなっていたでしょうか? 時間があれば再度アンケートを取り、自分たちで紙面づくりを試してみたいです。



調査を終えて

今回の提言も参考にしながら、これからも栃木市では、より良い広報を目指して取り組んでいきます。今後ともぜひ愛読ください。

宇都宮大学の学生の皆さん、お疲れさまでした。皆さんならではの視点からの提言、ありがとうございます。思っていた以上に難しいと感じたこともあったかと思いますが、今回「広報」に向き合った時間により培われた「目」が、皆さんの今後の取り組みに活きるものとなれば幸いです。

B 広報紙に興味がない層にも読みたいと思ってもらうためにはどのような工夫をすればいいのか。なかなか最善策が見つけづらいこの課題について真剣に考える機会を得られたこと、市の職員の方々の連携という経験を得られたこと、とても勉強になりました。

C これまで広報紙のことをよく知りませんでした。若者に読まれる広報紙作りを目指し、この頁を作り上げました。集大成となっているのでぜひ読んでみてください。

D 一年を通して広報紙をよりよくしようと頑張ってきました。想像以上に大変でしたが、新鮮で貴重な体験ができ、毎日が楽しかったです。粘り強く問題に向かい、栃木市職員さんやグループのみんなと最後までやり切れたことに、とても満足しています。

E 知り合いから「広報とちぎ、見たよ!」と声をかけてもらう機会が増え、広報紙が親しみやすいものになりました。より住民に親しまれる広報とちぎへのお手伝いできたなら幸いです。

宇都宮大学の学生の皆さん、お疲れさまでした。皆さんならではの視点からの提言、ありがとうございます。思っていた以上に難しいと感じたこともあったかと思いますが、今回「広報」に向き合った時間により培われた「目」が、皆さんの今後の取り組みに活きるものとなれば幸いです。

今回の提言も参考にしながら、これからも栃木市では、より良い広報を目指して取り組んでいきます。今後ともぜひ愛読ください。